

アンケート調査 実施結果

① 目的について

本アンケートは、今後の蕪崎市立小中学校の教育環境のあり方や、望ましい学校規模・学校配置について検討するために実施するものです。児童・生徒およびその保護者の皆様から幅広くご意見をいただき、今後の学校運営や適正規模・適正配置を考える上での基礎資料とさせていただきます。いただいたご意見を参考に、将来にわたり望ましい教育環境を確保し、質の高い教育の実現を目指すことを目的とします。

② 対象者について

- ・ 児童アンケート...市内小学校の 5・6 年生
- ・ 児童保護者アンケート...市内小学校 1～6 年生の保護者
- ・ 生徒アンケート...市内中学校 1～3 年生
- ・ 生徒保護者アンケート...市内中学校 1～3 年生の保護者

③ 回答率について

区分	配布数	回収数	回答率
児童	365 人	355 人	97.2%
児童保護者	872 人	387 人	44.3%
生徒	616 人	529 人	85.8%
生徒保護者	569 人	260 人	45.6%

④ 設問内容

- ・ 学校の良い点・課題・望ましい学級規模や人数・通学距離など、児童生徒・保護者双方の目線から幅広く意見を収集
- ・ 自由記述欄を設け、思いや意見・要望も記入可能

⑤ 実施方法

- ・ Microsoft Forms 等を活用したオンラインアンケート形式
- ・ 児童・生徒については学校内での授業時間を活用して実施
- ・ 保護者については、学校を通じて「あんしんメール」にてご案内・周知し、各自オンラインで回答

⑥ 実施期間

・2024 年 7 月 4 日（木）～7 月 21 日（日）※切

回答期間内に返信されたものについて集計を実施。

※本アンケートは、児童生徒・保護者の皆様の率直なご意見を今後の教育施策に活かすために行うものです。ご協力に心より感謝いたします。

本報告書は、蕪崎市内公立小学校における児童アンケートの分析結果について、小規模校（穂坂小学校・蕪崎北西小学校）と大規模校（蕪崎小学校・蕪崎北東小学校・甘利小学校）の特色を中心に比較し、今後の学校運営に活かす目的でまとめたものです。

- ・調査対象校と回答件数（合計 355 件）
 - 小規模校：穂坂小学校（19 件）、蕪崎北西小学校（30 件）
 - 大規模校：蕪崎小学校（90 件）、蕪崎北東小学校（100 件）、甘利小学校（116 件）

項目	小規模校の主な傾向	大規模校の主な傾向
良い点	・全員が友達、みんなと仲良くできる ・先生と話しやすい ・みんなで協力しやすい ・静かで安心感がある	・友達が多い ・行事やクラブ活動が盛ん ・活気がある ・いろんな考えの人がいる
課題	・友達の数が少なくなる ・クラブや行事の選択肢が少ない ・人間関係が固定しやすい	・にぎやかすぎると感じることもある ・一人ひとりに目が行き届きにくい ・友達関係のトラブルも
希望学級数	1～2 学級が良いとする回答が多い（例：「今のままがいい」「少ない方が落ち着く」）	2～3 学級以上が良いとする回答が多い（例：「クラス替えがあった方が楽しい」「多い方が友達も増える」）
希望学級人数	20 人程度が最多（「20 人くらいが話しやすい」「全員と仲良くできる」など）、10 人台も一定数	20～30 人程度が中心（「大人数でワイワイできる」「いろんな人がいると面白い」など）、少人数派も一部

学校規模	1つの学年で1 学級	1つの学年で2 学級	1つの学年で3 学級以上	わからない
大規模校	6.9%	55.2%	23.9%	14.1%
小規模校	38.8%	40.8%	6.1%	14.3%

学校規模	1学級10人程 度	1学級20人程 度	1学級30人程 度	わからない
大規模校	4.6%	64.4%	25.5%	5.6%
小規模校	28.6%	42.9%	10.2%	18.4%

※各割合は該当校規模内の回答比率をパーセント表示したものです。

3. 学校規模別の回答特徴

(1) 「良いと思う点」について

【小規模校の特色】

- ・全員と友だちになれる、他学年と交流がある、先生と距離が近い、みんなが主役になれる
- ・一人ひとりが目立てる・リーダー役になれる・学年間のまとまりや温かさ
- ・小規模ならではの“家庭的な雰囲気”や“安心感”を評価する声が多い

【大規模校の特色】

- ・友だちがたくさんできる、行事が盛り上がる、委員会やイベントが多い、多様な人と関われる
- ・にぎやかさ、選択肢の多さ、活気、刺激があることへの満足感
- ・学年内外の多様な人間関係や活動機会への期待が強い

(2) 「課題と思う点」について

【小規模校の課題】

- ・友だちが少ない、活動や行事のバリエーションが限られる、競争や刺激が足りない
- ・チーム競技やグループ活動が難しいなどの規模による物理的制約
- ・新しい人間関係を広げづらい、クラス替えが経験できないことへの不満も

【大規模校の課題】

- ・先生の目が行き届きにくい、一人ひとりの発言・活躍機会が限られる、友だちを作るのが大変
- ・にぎやかすぎて落ち着かない、孤立感やグループ分けの難しさ
- ・多人数ゆえの“埋もれ感”や“心のケア不足”を指摘する声

(3) 希望する学級数・人数

【小規模校】

- ・1 学級 20 人前後を望む声が多く、全員と仲良くできる、先生にしっかり見てもらえるなど少人数の安心感やきめ細かな関係性を重視
- ・2 学級を希望する場合はクラス替えを経験したい、新しい友だちができるなど“多様性”も求めている

【大規模校】

- ・2～3 学級 20～30 人前後が多数。いろいろな人と出会える、にぎやか、クラス替えが楽しみなど多様性や活気への期待
- ・多すぎず少なすぎずちょうど良いとバランス志向も多い

(4) 自由記述から読み取れるキーワード

【小規模校】安心、先生に見てもらえる、発言しやすい、みんなと仲良く、家庭的、クラスが一つで落ち着く

【大規模校】友だちが多い、にぎやか、刺激がある、楽しい、行事が多い、自分らしくいられる

4. 総合評価と今後の提案

1. 小規模校の強みは、きめ細かな人間関係・一人ひとりの活躍・学年間のつながり・家庭的な雰囲気など。今後は「外部交流や合同活動」で刺激や多様性を補う工夫が有効。
2. 大規模校の強みは、多様な友人関係・豊富な行事・活気や刺激など。今後は「小集団活動」や「個別対応の充実」で埋もれ感や孤立への配慮が大切。
3. 双方の長所を活かし合う施策（例：縦割り班や合同授業、小グループ学習など）で、児童が“安心して多様な経験ができる学校づくり”を目指すべき。

5. まとめ

本アンケートからは、小規模・大規模それぞれの特色や児童の声の違いが明確に浮き彫りになりました。今後は、児童一人ひとりが「安心」と「多様性」の両方を感じられる教育環境の充実が求められます。

以上

蕪崎市立小中学校 保護者アンケート結果 報告書

1. 調査概要

本報告書は、蕪崎市立小中学校の教育環境の今後や望ましい学校規模・配置について、保護者の皆様からいただいたアンケート結果を分析し、主な傾向と今後の方向性をまとめたものです。特に、小規模校・大規模校それぞれの特色や課題をクロス集計し、今後の検討に資する情報として整理しています。

2. 主な回答傾向

・教育環境への満足度

多くの保護者が「先生の親身な対応」「安心できる雰囲気」「友達関係の良さ」など学校生活への満足を挙げていました。

小規模校では「家庭的な雰囲気」「教職員の目が行き届く」こと、大規模校では「活気」「行事の多さ」「多様な人間関係」が強みとして評価されていました。

・課題・不安点

小規模校では「活動や交流の機会が限られる」「友達が少なくなる」「刺激や競争が不足しがち」という声が多く、

大規模校では「一人ひとりへのきめ細かな対応が難しい」「いじめ・不登校への不安」「教職員の多忙感」などが課題に挙げられていました。

・学級規模・人数の希望

どちらの校種でも「1 学級 20 人程度」を望む声が最多で、小規模校では「1 学年 1～2 学級」、大規模校では「2～3 学級以上」が望ましいと考える傾向が見られました。

3. クロス集計結果

項目	小規模校の主な傾向	大規模校の主な傾向
良い点	家庭的・アットホーム、全員が顔見知り、安心感	活気、多様な人間関係、行事・選択肢の多さ
課題	友達が少ない、活動が限定される、交流が狭い	目が行き届きにくい、先生が忙しい、いじめ不安
希望学級数	1～2 学級を希望する割合が高い	2～3 学級以上を希望する割合が高い
希望学級人数	「20 人程度」を両校種で多数が希望	「20 人程度」を両校種で多数が希望

【希望学級数クロス集計】

小規模校：1 学級 28.6%、2 学級 40.5%、3 学級以上 7.1%、わからない 23.8%

大規模校：1 学級 1.2%、2 学級 27.5%、3 学級以上 44.1%、わからない 27.2%

【希望学級人数クロス集計】

小規模校：「20 人程度」78.6%

大規模校：「20 人程度」80.0%

4. 自由記述から見える保護者の声（抜粋）

【小規模校の保護者より】

・少人数なので先生の目が届きやすく、学校全体が家族のような雰囲気です。安心して通わせられる。

・兄弟学年との交流が多く、思いやりや助け合いの心が育つのが良い。

・友達の選択肢が少ないので、もう少し児童数が増えてほしい。多様な体験や競争も必要と感じる。

・イベントや行事の規模が小さいのは少しさみしい。合同でできることが増えると嬉しい。

【大規模校の保護者より】

・活気があり、友達もたくさんできる。様々な個性の中で学べるのが魅力。

・人数が多い分、一人ひとりにしっかり目が届くよう、先生のサポート体制を充実させてほしい。

・学級数が多く、クラス替えもあって子どもにとって良い刺激になっている。

・行事や部活動が盛んで子どもが成長できる環境だと思う。

【共通する声・その他】

- ・通学路の安全や交通手段の確保はとても大切。
- ・学校が変わっても、今の良さをできるだけ残してほしい。
- ・子どもが安心して楽しく学べる学校にしてほしい。

5. 今後の学校運営等に活かすべきポイント

1. 「安心感」と「多様性・活気」の両立

小規模校のアットホームな良さを活かしつつ、大規模校の活気や多様性も部分的に導入できる仕組み（例：学校間交流や合同行事の強化など）が必要。

2. きめ細かな支援と教職員体制の充実

規模に応じて支援体制や教職員配置を柔軟に工夫し、一人ひとりに寄り添える環境づくりが期待されます。

3. 通学や安全面への丁寧な配慮

統合や再編の場合は通学距離や地域コミュニティの維持、保護者・地域との対話を重視することが重要。

4. 保護者の声の継続的な反映

今後の検討においても、定期的なアンケートや懇談会等を通じて、現場や家庭の意見を政策に生かしていく体制づくりが求められます。

6. まとめ

保護者アンケートからは、現状維持への安心感と、今後の学校再編に対する慎重かつ前向きな期待の両方が見受けられました。

小規模校・大規模校それぞれの特色を尊重しつつ、すべての子どもたちが安心して学べる質の高い教育環境を確保するため、今後も現場や家庭の声を大切にした検討・施策の推進が不可欠です。

このような自由記述からも、保護者一人ひとりの思いや期待、不安が色濃く表れていました。今後も丁寧な意見収集と対話を継続し、すべての子どもにとって最良の教育環境を目指す必要があります。

韮崎市立中学校「生徒アンケート」 報告書

1. 調査概要

本報告書は、韮崎市立中学校において実施した「生徒アンケート」の結果について、小規模校（穂坂小・韮崎北西小）と大規模校（韮崎小・韮崎北東小・甘利小）出身生徒の特徴を中心に分析し、今後の学校運営や指導改善また小中学校の適正規模適正配置についての参考とするものです。

- ・調査対象：市内中学校 1～3 年生
- ・主な内容：中学校生活の印象、良い点・課題、理想の学級数・人数、自由記述、進学時の感想等
- ・実施時期：2025 年 7 月

2. 全体の主な傾向

（1）中学校生活への評価

「新しい友だちができた」「部活動が楽しい」など新たな出会いや経験を前向きに捉える意見が多数。

「人数が多くて様々な人と関われる」「多様な意見が聞けて勉強になる」など、大規模校ならではのメリットも肯定的に挙げられた。

（2）課題・悩み

「クラス替えや人間関係への不安」「勉強の難しさ」「部活動や校則に戸惑う」など適応面の悩みも一定数存在。

「にぎやかすぎて落ち着かない」「先生が目が行き届きにくい」など、規模拡大による課題を挙げる生徒もみられた。

（3）理想の学級数・人数

「20 人前後」を希望する生徒が最も多く、「集中できる」「全員と話せる」「先生に質問しやすい」などが理由。

「30 人くらい」を希望する声は「にぎやかで活気がある」「いろいろな性格の人がいる」など多様性を求める傾向。

「10 人前後」を希望する声には「安心できる」「緊張せずに済む」「先生と話しやすい」など、密な関係性を重視する意見がみられた。

3. 小規模校出身生徒の傾向

進学当初、「人が多くて緊張」「友だちができるか不安」など規模の違いへの戸惑いが強い傾向。

ただし「新しい友だちができた」「活動が楽しい」など、比較的早期に適応できる生徒も多い。

小規模校ならではの「先生や友だちとの深い関係」「全員知り合いの安心感」への言及も多い一方、「大人数での発表・活動に最初は抵抗」「部活や授業のテンポに戸惑う」など、環境変化への不安も見受けられる。

小規模校で育んだ“密な人間関係”と中学校で広がる“新しい出会い・多様性”の双方を肯定的に捉える声が印象的。

4. 主なクロス集計結果

(1) 中学校生活への適応（慣れるまでの期間）

	小規模校	大規模校
すぐに慣れた	39.4%	47.3%
1か月くらいかかった	46.8%	39.6%
学期の途中くらいまでかかった	11.7%	8.3%
今でも不安がある	2.1%	4.9%

→小規模校出身者のほうが、慣れるまでに時間がかかる傾向が見られました。

5. 自由記述欄からの特徴

「安心」「静か」「話しやすい」「仲が良い」「みんなと仲良くなれる」など、アットホームで落ち着いた雰囲気の評価する意見が多い。

「人数が多いと楽しい」「競い合いができる」「友だちが増える」など、多人数・多様性の良さを認める意見も目立つ。

一方で「集中できる」「先生の目が届きやすい」など、少人数の教育的メリットを重視する声も一定数みられる。

6. 改善提案・今後の課題

1. 進学直後の“規模ギャップ”を意識した心理的サポートの充実

小規模校出身者に限らず、集団生活への適応を助けるための「少人数グループ活動」や「個別面談」を重視。

2. 学級規模・学習集団の柔軟な設計

教科や活動内容に応じて少人数指導やチームティーチング等を活用し、きめ細かい指導体制を工夫。

3. 進学前後の交流・オリエンテーションの強化

小・中学校間の交流行事や体験活動を通じて、環境変化への不安を軽減し円滑な適応を促進。

4. 自由記述から得られる“安心感”と“多様性”の両立を重視

双方の長所を活かした学校運営と教育内容の充実を図る。

7. まとめ

- ・小規模校出身者は中学校生活への適応にやや時間がかかる傾向があり、進学直後のサポート体制強化が有効と考えられます。
- ・大規模校出身者は友人関係や活動面での安心感が強い一方、一人ひとりのケアが行き届く配慮も求められます。
- ・どちらの出身者も「適度な規模で多様な友人関係と先生の手が行き届く環境」が理想とされています。
- ・入学前後のガイダンスや交流活動の充実、個々の困りごとに寄り添うフォロー体制、安心して新生活を始められる環境づくりが重要です。

以上

韮崎市立中学校 保護者アンケート結果 報告書

1. 調査概要

本報告書は、韮崎市立中学校生徒の保護者を対象としたアンケートの回答内容を分析し、教育環境や進学時の不安・課題、保護者から寄せられた自由記述も含めてまとめたものです。

2. 主な回答傾向

・教育環境への満足度

部活動や学校行事の充実、先生の親身な指導、友人関係の良好さを高く評価する声が多く見られました。

・進学時の不安要素

「友だちができるか」「学習についていけるか」「先輩や部活動への不安」など、中学校入学時の不安は多岐にわたりました。

特に「小学校時代の人間関係がリセットされる」「新しい環境での適応」「通学距離・安全面」など、環境変化への不安が強調されています。

・学級規模・人数への希望

多くの保護者が「20人程度が望ましい」と回答し、「複数学級」「クラス替え」など多様な友人関係や交流の維持も重視されています。

・課題・不安点

生徒数減少による活動や交流の縮小、教職員の負担感やサポート体制、いじめや人間関係への不安が課題に挙げられました。

3. 自由記述から見える保護者の声（抜粋）

・入学時、子どもが友達関係やクラスになじめるか心配でした

・学習面についていけるか、部活動でうまくやっていけるか親として不安がありました

・人数が減ると学校行事や部活動の選択肢も少なくなり、経験が限られるのではと懸念しています

・いじめや不登校がないよう、先生方の細やかな見守りに期待しています

- ・新しい友だちができてからは楽しく通っていますが、最初はとても不安そうでした
- ・子どもの適応力を信じてはいるが、学校全体でフォロー体制をもっと強化してほしい
- ・登下校時の安全対策や交通手段の充実も大切だと思う

4. 今後の学校運営・再編に活かすべきポイント

1. 進学時の不安を軽減するサポートの強化
入学前の交流会・ガイダンスの充実、先輩・教職員によるフォロー体制
2. 学習・生活両面でのきめ細かな支援
20 人前後の学級規模を維持しながら、学級担任制や相談窓口の拡充
3. 多様な経験・交流の機会の維持・拡充
生徒数減少下でも部活動・学校行事・地域連携などの多様な体験を保障
4. 安全・安心の通学環境整備と情報共有
通学距離や登下校時の安全確保、保護者・地域との丁寧な対話の推進

5. まとめ

中学校保護者アンケートからは、現状への満足とともに、中学校進学時の子どもの不安や環境変化への配慮を強く求める声が目立ちました。

今後も保護者・地域と連携し、安心して進学・通学できる学校づくりを進める必要があります。